

お静かに!

QUIET PLEASE!

2022年11月 発行

公益財団法人 日本パラスポーツ協会

T 103-0014

東京都中央区日本橋蛎殻町2-13-6

[TEL] 03-5939-7021 [FAX] 03-5641-1213

[HP] https://www.parasports.or.jp/

[TW] https://twitter.com/jpsa_sports

[FB] https://www.facebook.com/jpsasports

●パラスポーツの情報や動画は 日本パラスポーツ協会HPへ



Facebook

●最新情報を 随時更新中! 日本パラスポーツ 協会FB、TWへ







ジブラインドフットボールとは?

ブラインドフットボールは視覚に 障がい(全盲〜光覚)のある選手が行います。 フィールドプレーヤーはアイマスクを装着し、 転がると出るボールの音などを頼りにプレーします。 見えてないとは思えないような ボールを扱うテクニックや身体を張った守備が 魅力のスポーツです。









ブラインドフットボールは、2004年アテネ大会からパラリンピックの正式競技になりました。転がると音が出る専用のボールを使用し、選手はその音や、ゴールキーパー、監督、ゴール裏から声を出すガイドの声などから情報を得てプレーします。そのため、観客は競技の妨げにならないよう、プレー中に声や音を出して応援することはできません。静寂の中で行われるフットボールと言えます。

CONTENTS

競技の概要	3
使用するピッチ	5
全主なルール	7
ブラインドフットボールのここに注目!	10
● ガイドの声が歓声に変わるとき	9
CONTENTS ●選手たちを後押しする応援ガイド	13
• もっとブラインドフットボールを知りたい!	14

日本パラスポーツ協会公式YouTube

ジャパンパラをはじめパラスポーツ動画が充実!





https://www.youtube.com/user/jsadchannel

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会

ブラインドフットボールの最新情報はコチラ





https://www.b-soccer.jp/

競技の概要

ブラインドフットボールは、視覚に障がいのある選手がフィールドプレーヤーとしてプレーします。パラリンピックなどの公式国際試合に出場できるのは全盲〜光覚までの選手(B1)のみ。視力はあるけれど著しく視野が狭いなどの弱視(B2/B3)の選手は出場することはできません。

1チームはB1のフィールドプレーヤー4名と晴眼もしくは弱視のゴールキーパー1名の合計5名で構成します。ゴール裏で声を出してゴールの位置やピッチの状況を選手に伝えるガイド(コーラー)もチームの一員として戦い、試合開始前は選手と一緒に入場・整列します。

ルールは一般のフットボールやフットサルとほぼ同じですが、 ブラインドフットボール独自のルールも存在します。



フィールドプレーヤーはアイマスクを装着した 視覚に障がいのある選手たち



ガイドも試合前、一緒に整列します

ロービジョンフットサルとは?

視力や視野を著しく欠くなどの選手 (B2またはB3) がプレーするフットサルで、ルールは通常のフットサルとほぼ同じです。B1の選手が行うブラインドフットボールとは違い、プレー中はアイマスクを装着しません。

1 試合時間

国際ルールでは、1試合は前後半15分ハーフの合計30分のプレーイングタイムで行われます。ハーフタイムは10分間設けられます。

2 用具





ヘッドギア

選手同士の頭がぶつかって負傷しないように装着します(国際ルールではヘッドギアの装着は義務ではありませんが、国内ルールでは装着が義務づけられています)

アイマスク

選手には、光を感じる程度から全く感じない全盲まで視覚に 差があるので、全選手が公平な 条件でプレーできるよう、アイ マスクの装着が義務づけられて います

ボール

フットサルと同じ大きさですが、ボールの中が特殊な構造になっていて、転がると「シャカシャカ」と音が出る仕組みになっています

使用するピッチ

フットサルと大きさ (40m×20m) は同じで、特徴的なのは 両サイドに高さ約1mのフェンスが並び、サイドラインからボールがピッチ外に出ることはありません。このフェンスを活用したパスやトラップなどのプレーもこの競技の特徴です。

監督

中盤エリアにボールがある ときは声を出して選手に指 示を与えることができます。

ゴールキーパーエリア

5.82m×2mの大きさのエリアで、 このエリア内でのみゴールキーパー はボールに触わることができます。 もしエリア外でゴールキーパーがプ レーに関与した場合は、相手チーム にPKが与えられます。

エンドライン

ボールがエンドラインを割る とコーナーキックになります。

ガイド(コーラー)

攻撃エリアにボールがあるとき、ゴールの裏から「45度、3m!シュート!」など具体的なゴールの位置や距離などの情報を選手に声で伝えます。

ゴール

縦2.14m×横3.66mで、フットサルで使用するゴール (縦2m×横3m) よりも大き いサイズです。

ペナルティエリア

このエリア内で反則を犯して しまうと、相手チームにPK が与えられます。



サイドフェンス

高さは約1mで、触れて自分の位置を確かめたり、サイドフェンスを活用してボールをトラップしたりします。

全主なルール

(1) ノーボイ

選手たちがボールを追いかける際、選手同士が衝突してケガをする恐れがあります。そこでボールを持った相手に向かって行く選手は自分の存在をボールを持った選手に伝えるために、「ボイ!」と声を出さなければならないルールがあります。「ボイ!」と言わずにボールに向かっていくと、ノーボイという反則が取られます。

「ボイ!」 (Voy!) スペイン語で 「行く」という意味

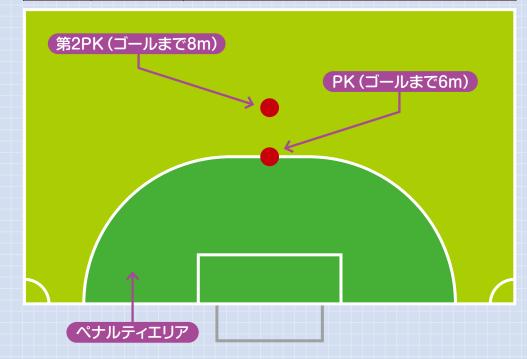


守備側はボールが転がると出る音などを頼りに「ボイ!ボイ!ボイ!」と声を出しながらボールを 奪いに向かっていき、攻撃側は「ボイ!」の声や足音などを頼りに守備の位置を確認して攻めてい きます。

反則と2種類のPK(ペナルティキック)

一般のフットサルと同様、ブラインドフットボールでもハンドや相手をつかんだり脚をかけて倒してしまうなどの接触プレーがあった場合は反則となります。ペナルティエリア内での反則は相手チームにPKが与えられ、ペナルティエリア外での反則の場合は、反則があった位置からのフリーキックとなります。また前後半それぞれでチームの合計ファウル数が5回を超えた場合は第2PKが相手チームに与えられます。通常のPKはゴールまでの距離が6m、第2PKは8mとなります。

種類	ゴール からの距離	与えられる条件
PK 6m		ペナルティエリア内で反則があった場合
第2PK	8m	前後半それぞれでチームの合計ファウル数が5回を超えた場合



Column



ガイドの声が歓声に変わるとき

ガイドはゴールの裏から声で選手に情報を伝え、勝利をアシストする存在です。選手のプレー中にピッチの状況を「(ゴールまで)5m!45度!」などとガイドが伝える情報は好プレーに欠かせません。



ガイドは試合開始前の

選手入場時も選手と一緒に入場し、試合でも同じ目線で戦って喜びや悔しさを共有します。同じチームメイトとして勝利を目指す両者の間には固い信頼関係があり、選手は信頼できるガイドの言葉だからこそ信じてプレーすることができます。また、ゴールが決まった瞬間、ガイドは一番近くで得点シーンを見ることができ、誰よりも早く選手のもとに駆け寄って喜びを爆発させます。そんな歓喜の瞬間を最高のポジションで味わえるのもガイドの特権と言えるかもしれません。

音や声でゴールを選手に伝える方法

PKやフリーキックを蹴る前、ゴール枠の位置をガイドが選手へ伝えます。その際、ゴールポストを金属の棒などで「カン!カン!」と叩いたり、手を叩いたりしながら「正面!」など声を出して教えます。また、ゴールを九等分してそれぞれの位置を番号で表すことによって、「1番(左上)」、「9番(右下)」など瞬時にシュート方向を伝えることもあります。



			差がい
11	4	7	
2	5	8	
3	Б	9	

ブラインドフットボールのここに注目!

ブラインドフットボールを観戦するうえで、知っているだけで 観戦がさらに面白くなる知識をご紹介します。

研ぎ澄まされた感覚による駆引き



選手たちは音を頼りにプレーしますが、頼りにするのはボールの音や声だけではありません。 足音やウェアのこすれる音はもちろん、風など 視覚以外の感覚をフルに働かせて情報を収集します。

一方、攻撃側は相手に自分の動きを悟られないよう、音を使ってフェイントをかけたり、ボールをふわりと高く蹴り上げたり(空中にある間は音が出ない)と駆引きを行うこともあります。

💋 抜群の空間認知能力

フィールドプレーヤーは目で自分や味方、相手選手の位置を確認することができませんが、類まれなる努力を重ね、空間認知能力を手に入れています。選手が頼りにするのはやはり音や声で、選手によっては頭の中でピッチ全体をイメージしているそうです。そしてGKやコーチ、ガイドの声からまず自分がピッチのどこにいるかを認識し、周りの味方、相手選手の声や動く音をもとに、それぞれがどこにいるかを頭の中のピッチの上に描くことができると言います。選手のスーパープレーは積み重ねた努力の結果から牛み出されているのです。



こんなに広いピッチ全体を頭の中にイメージしている選手も!?

昼 身体がぶつかり合うサイドフェンスを使った攻防

想像力が豊かな選手たちですが、そのプレーは激しく、ピッチのいたるところで身体がぶつかり合うようなシーンが見られます。接触が多くなる場所の一つがサイドフェンス際です。攻撃の多くはゴールキーパーからのスローをサイドフェンスを利用してトラップするところから始まります。またパス交換にもサイドフェンスが多く使われます。守備側はドリブルで向かってくる選手からボールを奪うよりも、ドリブルに入る前にサイドフェンス際でボールを奪う方が効率的です。そのため、サイドフェンスで身体をぶつけ合ってボールを争う場面が必然的に増えます。時に競り合いの中で選手たちがサイドフェンスにぶつかって大きな音が静かな会場に響き渡ることもあり、その激しさに圧倒されることも。

視覚に障がいのある選手が行うスポーツの多くは選手同士の接触がありませんが、ブラインドフットボールはサッカーならではの激しくエキサイティングな一面も備えています。



壁を利用して転がるボールをトラップ!



TO 020

激しい競技です選手同士が衝突をすることもある

🕢 コミュニケーションが試合の行方を左右する!

ブラインドフットボールはチームスポーツ。仲間と上手くコミュニケーションをとれるかどうかは、試合結果に影響を与えるほど重要です。コミュニケーションをとるのは互いに見えないフィールドプレーヤー同士の場合、ゴールキーパーなど、片方のみが見える場合のそれぞれがあります。

フィールドプレーヤー同士の場合は、まずお互いがピッチのどこにいるのか声を出しあって確認します。各チームそれぞれに様々な戦術がありますが、声をかけ合うことでポジショニングや動きを修正します。

プレー中、フィールドプレーヤー以外に声を出しても許されるのがゴールキーパー(GK)、監督、ガイド(コーラー)です。彼らは自分の目でピッチの状況を確認して、選手へ情報を伝えます。ただし、ピッチの上の状況は刻々と変わっていきます。その中で何を選手に伝えるべきか、また伝え方はどのようにしたらわかりやすいか、伝え方を工夫します。例えば、お互いを知りつくした間柄の選手とガイドの場合はとにかくシンプル。「(ボールを)持ってこい!」と声をかければ、選手は『まだシュートを打つべき状況ではなくドリブルをする』と認識し、「シュート!」と声をかければ『シュートを打てる状況になり、ガイドの声の方向へ打てばよい』と瞬間的に意図を汲み取ります。言わば、GK、監督、ガイドは大事な情報だけを簡潔に伝えるコミュニケーションのプロフェッショナルです。彼らがどのような言葉をかけているか、会場でぜひ耳を傾けてみてください。



GK はシュートをセーブすると同時に、選手に も指示を出すなどマルチな役割を担います



組織化された守備を構築するためには密なコミュニケーションは欠かせません

Column



選手たちを後押しする応援ガイド

ブラインドフットボールは静寂の中で行われる競技で、選手たちはボールが転がって出る音や声だけでなく、足音や息遣いなども頼りにプレーします。

選手に声援を送ることができるのはハーフタイムや選手交代、タイムアウトなど試合がストップしている間のみで、それ以外のタイミングで声や音を出してしまうと選手のプレーの妨げとなります。特に、得点チャンスのときは「あ~、惜しい…」などとついつい声やため息を出してしまいがちですが、そんな場面こそ選手がルーズボールの音を聞き取って反応できるように静かに見守らなければなりません。得点が生まれそうなシーンこそ、グッとこらえて心の中で声援を送りましょう。その分、ゴールが決まった瞬間は大きな歓声で選手にゴールが入ったことを教えてあげてください。見えない選手たちにとって、ゴールが入ったかどうか最初にわかるのは歓声なのです。



プレー中以外は大声援で選手を応援しよう!

もっとブラインドフットボールを知りたい

・ ブラインドサッカー日本選手権大会

日本全国のクラブチームによる日本一決定戦。日本選手権を含め、国内クラブチームの大会は国内のローカルルールを採用し、弱視者や健常者のみならず、性別も関係なく誰もが出場することができます。

€ LIGA.iブラインドサッカートップリーグ

2022年に新設され、競技力だけでなく組織運営力なども高いクラブチームが戦うリーグです。さらなる競技力の向上や、興行性の高い大会を開催してより多くの観客にブラインドフットボールの試合を楽しんでもらうことなどを目的としています。試合は日本のローカルルールで行われるため、弱視者や健常者も出場できますが、試合時間は国際ルールで実施します。





● ブラインドサッカー地域リーグ

トップリーグとともに新設されたリーグで、全国を4つのエリアに分けた各地域において国内ルールで試合が行われます。リーグと大会名にありますが、全国30以上あるクラブチームが出場したい日程のみエントリーすることが可能で、従来より参加しやすい大会形式になっています。